

## 理 科

### ・平成27年度「改善プラン」の検証（取り組みにおける成果と課題）

生徒の関心や意欲を引き出す授業や反復学習の機会を意図的に設定してきた。第3学年では、年々正答率が増加してきている。今年度も、基礎的・基本的な学習内容を定着させるために、反復学習をすることで、学習内容を定着させることが課題である。

第1学年においては、区学習効果測定の内正答率が、目標値に対して7.5ポイント、第2学年では6.0ポイント、第3学年では2.5ポイント下回っていた。経年変化では、2年生では昨年度に比べて正答率が減少しているので、今回の結果を踏まえて取り組んでいく必要がある。

### ・今回の調査結果

観 点	分 析	課 題
1 自然事象への 関心・意欲・態度	全学年で全国平均および区平均と比較して低い結果であった。	身近なことを科学的な事象とを関連付けることで興味・関心を高めるようにする。また、視覚的な教材や電子黒板などのICT機器を活用することにより、学習内容の定着を促す。 特に、第2学年においては、興味を持てるような導入をすることで、意欲を高めていく必要がある。
2 科学的な思考・表現	全学年で全国平均および区平均よりも下回っていた。	基本的な学習内容を定着させたいうえで、それらの知識を用いて様々な自然事象について考える力を身に付けさせる必要がある。さらに、身に付けた学習内容をもとに、発表する場面を設けていく必要がある。
3 観察・実験の技能	第1・2学年では区、全国を下回っていた。第3学年では、全国平均および区平均を上回っていた。	実験・観察器具の操作を定着させていく必要がある。そのために、ワークシートなどを活用し、反復学習をしていく。さらに、実験・観察の目的を明確にし実験手順を丁寧に確認していく。
4 自然事象についての 知識・理解	全学年で全国平均および区平均よりも下回っていた。	定期的に単元のまとめテスト等を行うことで、知識の定着を促す。定期考査では学習内容のさらなる定着を図れるように授業を進めていくことで改善していく。

### ・平成28年度の授業改善策

（第1学年） 授業に取り組む基本的な姿勢を身に付けさせる。ガスバーナーや顕微鏡などの実験器具の使い方や実験レポートの書き方等も含めた理科の基礎知識・用語の定着を図るとともに、観察・実験の結果等をレポートにまとめることを通して、表現力を高める指導をする。

（第2学年） 学習内容の定着を図るために、単元のまとめテストや復習する場面を設ける。実験・観察を行う際に目的の理解と結果を考察する力を重点的に指導していく。

（第3学年） 進路に向けて3年間の知識を定着させるために、復習、反復学習を行う。実験・観察を行う際に、十分に予想・考察の時間を設け、考える力を身に付けさせる。また、4人組での話し合いの時間をつくり、自分の考えをまとめ、表現する力を高める。